

## 審議会等の会議結果報告書

【担当課】 幼児教育課

会議の名称	第3回保育所運営審議会		
開催日時	令和5年2月2日（木） 午後6時30分～ 7時34分		
開催場所	茅野市役所 議会棟 大会議室		
出席者	※委員出席：鶴石悠紀副会長、野口幸子委員、澤渡裕子委員、上原美香委員、笹岡八重子委員、勅使川原はすみ委員、唐澤裕子委員 ※市側出席者：山田教育長、五味こども部長、柳澤幼児教育課長、笹岡幼児教育係長、田中保育総務係長、湯田坂米沢保育園園長		
欠席者	戸田允文会長、小澤佳奈委員、上原諭委員、若御子雅英委員		
公開・非公開の別	公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
事務局	1 開会 （柳澤幼児教育課長）		
幼児教育課長	2 あいさつ ただいまから、第3回茅野市保育所審議会を始めさせていただきます。 先日の運営審議会では、貴重なご意見をいただきありがとうございました。その中で、茅野市の保育で大切にしているものは何かとの話がありました。7月の審議会では保育所の運営状況、子育て支援事業の進捗状況は報告していましたが、保育の内容については、触れる機会がありませんでした。本日は、A3判の「茅野市の保育と教育」という資料をご用意させていただきました。今は説明いたしません、計画の中に反映をさせていただきましたので、その都度、ご覧いただきたいと思っております。本日の会議は、保育園管理計画のパブリックコメントが終了しましたのでその結果の報告、それから前回いただいた意見について、保育園管理計画の修正をご提示させていただき、ご審議いただきたいと思っております。よろしく願いいたします。それでは議長選出ですが、茅野市保育所運営審議会条例の第5条の規定に基づき、会長が議長となりますが、本日は会長が欠席ですので、副会長をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。		
議長	3 議長あいさつ 改めまして皆さんこんばんは。お仕事の後の時間をいただきました。本日も副会長の私が議長ということにさせていただきます。まだまだ、コロナも収束しておりませんので、本日もスピーディーな議事運営に努めたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。		
議長	審議会の会議の公開について 本日の会議についても、前回同様、公開とさせていただく旨を説明。 会議の公開について一同に諮ったところ、全員異議なくこれを了承した。		

事務局	<p>7 会議事項</p> <p>(1) 保育園管理計画におけるパブリックコメントの報告について 事務局は、パブリックコメントの報告について資料に基づき説明をした。</p>
委員	<p>わずか1人で2点のパブリックコメントなので寂しいですけど、せめて10人ぐらいあると違ったのだけど、市ではいろんな行政に対してパブリックコメントとをしょっちゅうやられるわけですけども、なかなか活発にご意見を寄せていただくというのはありませんよね。パブリックコメントをもっと活性化させるにはどうすればいいのか市長含めて、一度しっかり議論した方がいいかもしれませんね。</p>
事務局	<p>(2) 保育園管理計画の修正について 事務局は、前回の審議会で出された意見も踏まえ、計画の修正箇所を説明した。</p>
委員	<p>かなり追記のところもありますし、わかりやすく訂正されていると思います。意見ではないですが確認をしたいと思います。茅野市だけかどうか分からないですけど、茅野市の場合は赤ちゃんが生まれるとすぐにお母さんには絵本を贈りますよね。そして小学校一年生の時にも絵本を贈ります。最初の時はお母さんが選び絵本差し上げますが、その時にどんぐりプランだとか茅野市保育園管理計画みたいなものの冊子も差し上げていますか？</p>
事務局	<p>保育園管理計画を冊子としては差し上げていません。絵本は家庭での読書を大切にしたいために差し上げていますので、この保育園管理計画とは意味合いが違うので差し上げていません。なお、どんぐりプランなど他の計画もたくさんありますが差し上げていません。</p>
委員	<p>これは考えてみて欲しいと思います。赤ちゃんも生まれてすぐに未満児保育、幼児保育など非常に多くなっている中で、生まれて1年もしないうちに預けたくなるわけですよ。それを個別に相談すればいいやということになるんでしょうけど、どんぐりプランなどせっかくいいものがあるのでこんな状況にありますというPRにもなるし、お母さん方の育児ノイローゼなどのいわゆるお助けになるとと思います。</p>
事務局	<p>今までは、出生時にどんぐり手帳をお渡しし、成長の記録、子育て支援情報といった内容の入ったものをお渡ししていましたが、なかなか活用がされないという中で見直しをさせていただきました。子育て支援情報についてはこども課が主体となって進めており、子育て支援情報は全員の方にお渡ししていきます。その中に保育の情報も入っており、子育て支援に関わるいろんな施設、公園の情報も含めてもっと幅広い情報も入れていくことを考えています。今、健康づくり推進課では、「母子モ」の子育てのアプリを来年度から導入するという事で準備を進めています。そんな部分も含めながら、計画書とかいうことではなく、そういう情報の中に含めな</p>

がら発信していければなと思っておりますので、今のご意見を参考にしてまた、こども課の担当課の方にしっかりお伝えしていきたいと思えます。

委員

「茅野市の保育と教育」の資料を見て思ったのですが、数十年前にアメリカで幼児教育の専門家の壮大な実験がありました。計画の名前を忘れてしまいましたが。黒人の貧しい家庭の3000世帯だか、5000世帯をピックアップして、その家庭を2つのグループに分け、1つのグループは何もしないグループ。もう片方のグループには、週1回先生が出掛け、2、3歳児に特別なプログラムに基づいた教育をする。特に教育の場合には数値化できる能力と、非数値化能力と二つ分かれます。算数の試験をすれば、50点または100点などある程度数値化できる。或いは、歴史の記憶力は、記憶力のテストをすれば数値化できる。だが、非数値化能力は、例えば他の人に対するの思いやりが深いかどうか。或いは何かを取りに挑戦したり、取りかかる時に根気よく頑張るか、簡単に諦めてしまうかという。そういうようなのが非数値化能力。人間の能力は、数値化できる学校教育みたいなものと、人としての非数値化能力と二つあるわけですね。だから子どもの時に、今の実験ですと、3歳から5歳ぐらいの間に非数値化能力、つまり根気よく挑戦したり、新しいことに興味を持ったり、お友達に優しくしたり、そういう非数値化能力を高めるようなことを、1週間に1回、特殊な先生が行きこの教育をずっと何年も続けた結果、20年、30年の記録までずっとフォローしている実験です。結果的に30年40年たったときに、そういう幼児の時に非数値化教育をしっかりやったグループからは、お医者さん、弁護士等になっている、非常に人の役に立つ高度な職業になって人の比率が非常に高く、何もしなかったところの人たちの2倍とか3倍の差が出た壮大な教育実験が有名ですけれど、そういったのをふと思い出しました。ここでいろいろ書かれているのは、絵本にしても、或いは運動遊びや食育についても、ある意味では非数値化能力をきちんと高めていくような仕掛けになっているなというふうに感じました。そういう観点で、試験の点数ばかり上げるといふ教育に小学校、中学校がそうなりがちですけど、そうならないで、大事なもう一方の人間らしさの教育を、特に幼児うちには視点を置いて、それを楽しみながら、身につけられるということができるといいなと。この資料を見ながらそんなふうに感じました、コメントでありますけど。その実験については、詳しいことは私も調べきれっていませんけど、興味があれば調べてみてください。

委員

私は茅野市の保育が素晴らしいと思えました。今年4月から園長になってそう思うんですけども、茅野市の中には私立の保育園もありますが、公立、私立関係なく研修会に参加を呼びかけてくれ、研究集会にも参加することができます。それから、障害児教育についても、うちは幼稚園ですが、子どもの様子を観察に来てくださり、加配保育士さんをつけていただいています。それから、ここに書いてある通り、いろいろな専門機関の先生方が来てくれたり、それから、市の研修がとても充実しています。今年1年やってみて、先生方の子どもへの関わり方がとても変わってきているのはこの研修の成果かなと思えます。本当に感謝しています。ありがとう

委員	<p>ございます。</p> <p>この計画とはちょっと離れていますが、現役の時に黒田先生にいらしていただいて、子どもさんのこと、保護者の方との関わり方を教えていただきすごく役に立ち勉強になりました。それが今も続いていると思いますが、私立の方にはまだ広がってはいないんですよね。保育園や幼稚園で困ってらっしゃることがたくさんあると思うのですが、黒田先生とその他の方達の指導が本当に役立ち、強い自信にもなったので継続をお願いしたいことと、茅野市中の施設にそれが広がるとありがたいなと思います。黒田先生も入っていただいた時に、「10年20年計画でやっていかないと、今後、障害の方とか、いろんな問題を抱える家庭の皆さんのフォローは変わっていかないよ」とおっしゃっていたので、ぜひお願いしたいと思いました。それがこの8番の親育ちというところにも、十分繋がるのではないかと思います。幼児教育課のやっていることを、自信を持ってここに、記入ができてもいいんじゃないか思うくらいでした。以上です。</p>
事務局	<p>委員さんのおっしゃってくれたところをちょっとお話させていただきます。黒田先生には、昨年度まで関わっていただき相談、支援などしていただきました。今年度からは先生が変わり、黒岩先生にご指導いただいています。どちらかという、保護者支援の部分になるものですから、保護者の対応の仕方、困っている内容についてのご相談させていただいております。もし必要であるならば、おっしゃっていただいたように私立にもお声掛けしていきたいと思いますが、予算的なこともありますので、また検討させていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>(3) その他</p> <p>事務局は今後の予定及び広報の仕方を説明した。</p> <p>3月1日の議会全員協議会で報告後、市長決裁を経て成案</p>
委員	<p>市長決裁後はどのように広報するのか</p>
事務局	<p>広報についてはホームページで広報します。茅野市の全計画について冊子にしないということになっておりますので、冊子での配布はできません。全てにおいて、ホームページでの公開ということにさせていただきます。</p>
委員	<p>冊子にしないというのは経費節減とか、自然にやさしいとかそういう事もあると思うが、なかなかホームページに新しく載ったよというのを、市民の人がどれぐらい見るかなということが問題になってくるので、年に2回ぐらい、例えば、全地区の区長会だとか、或いは4地区の運営協議会の中に子育て支援部会なんかも基本的には入っているのですが、そういったところで見える機会があると捉えて一つぜひ、新しく作ったものについてはホームページに載ってますよというそういうPRだけは是非やっていただきたいなと思います。知らせるということは何らかの方法でやらないと、ホームページに載ってますよという事が、市民としてはいつそれが載ってるかということすらなかなか伝わりませんので、できるだけそういう機会をと</p>

<p>委員</p>	<p>らえて、関心のある人にぜひ見てくださいよということを伝えるようにご努力いただきたいなど。そんなふうに思います。</p> <p>この計画の中にみんなの意見をしっかり聞いていただき、丁寧に対応していただきましてありがとうございました。これは全然違うのだけれど、保育士の研修について、皆さん一生懸命いろんな研修をしていると思いますが、この間、幼保小連携の関係である保育園を見させていただいた時に、すごく感心した保育園がありました。保育士の保育姿勢が落ち着いて、大声を出さなくても子ども達をしっかりまとめられる、子ども達もすごいレベルが高くなっている、そういう保育をしている保育士の姿を保育士自体が参加して見ることはできないか、多分、自分の行っている保育姿勢と比べ自分も見直す機会になるのではないのでしょうか。今も研修をやっていると思うんですけれども、事務方たちもそうですし先生たちもわかっていると思いますが、そういうレベルの高い保育士の参観を研修の中に入れるといいかなと思いました。検討をよろしくお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>今の件についてありがとうございました。研修の中で、茅野市の保育園では公開保育というのをしています。4月から講師に入っただき、徐々に力量を上げ、最後に公開保育をして皆さんに見ていただいています。そういう部分もありますし、もちろん園内でも、他のクラスの保育を見あい研修を行っています。今いただいたご意見を来年の研修計画の参考にさせていただきます。</p>
<p>事務局</p>	<p>やはり、他の保育士の保育を見るということは、日頃やっている保育を見直す機会になるととてもいい機会です。自分の接し方はどうだったんだろう、子どもたちはどう思っているんだろう。という事を学べる機会なので、とても大事だと思います。そして、そういうことを取り入れていければと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>私が言うことではないんですが、事務方の人たちがあまり謙遜していらっしゃるのですが、茅野市の保育の公開保育は、保育を高めるという意味で、もう10年以上前から過去に厚労省の保育審議官をなされた天野珠路さんにずっと入っただき、その方に公開保育とかの指導等をずっとやってくださっていて、そのことも保育の質を高めるという意味でとても良かったのではないかなと思っています。先ほど先生もおっしゃったように、茅野市はそういう意味で、保育を高めるという研究の部分で、課の方が一生懸命頑張ってくさっているの、本当に他の市町村に比べても、とても嬉しいなというふうに思っています。そんなこと一言つけ加えておきます。</p>
<p>委員</p>	<p>保育士が他の保育士の状況を見に行くといえますか、勉強しに行くといえますか。非常に良い提案です。中学校の場合はそういう研修がありますよね、先生方がどこかの特定の中学校に集まって、授業のやり方を見たり、或いは意見交換したりする事を年に1回か2回かそういう制度化された相</p>

	<p>手の違う学校がどういうふうに行っているかというのを、実際に、授業参観で見に行くと勉強するというのは、全校を見に行くのではなく、1クラスだけ登校して参観をする。ずっと長年の制度として組み込まれておりますが、保育園でもやろうと思えばできることはできますね。何かぜひそういったことも一つ。ご考えていただいて、全体のレベルが少しでも上がっていくようであれば、その平準化とかですね、共通化といった考え方の上でも役に立つかなと思いますので、検討いただけたらと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどのパブリックコメントで、なかなか浸透しないというふうなことをお聞きしているいろいろ調べていたんですけども、今、茅野市でLINEを配信してくださっていて、当初はコロナで入ったんですけども、見ると、下の方にいっぱいいろいろ入っており、初めて見る場所もあるんですけども、これはどこかの課がやってくださってるんですか？</p>
<p>事務局</p>	<p>地域創生課が担当となります。</p>
<p>委員</p>	<p>このLINEの配信もわかりやすく、こんなにいろんな項目があるんだなと思ったんですけど、この中に、パブリックコメントとかも入れるともっと皆さんの目に触れるのかなというふうに思いました。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございました。今ご意見いただいた内容、とても活用できると思うので、今度計画ができましたという時には、LINEが使えるかというところを検討していきたいと思っております。パブリックコメントは、保護者にも「出しました」ということをキッズビューで配信しましたが、保護者で大体94%ぐらい既読がつかまりましたので、保護者には今パブリックコメントをやっていますということはわかっていただいたようですが、それでホームページを見に行くかどうか、そこに興味を持つかどうかというところがちょっと引きつけが足りなかったかなと反省しています。確かにLINEで配信すれば、登録してる人には見ていただけるかなと思います。ありがとうございます。</p>
<p>教育長</p>	<p>4 あいさつ</p> <p>3回の会議になりましたが、どうもありがとうございました。ちょっとだけ私の思いを語らせてください。3年ほど前になりますが、ある保育園の研究保育に行きました。1時間見て、とてもいい保育でした。私のような仕事していると誰も褒めてくれなくて毎日つらい思いです。それで、研究保育が終わった後で、園庭の隅にあるベンチに腰かけ、もう誰もいないんですね。それで、八ヶ岳を見ていたんです。そしたら園児が3人パーッと寄ってきて、「おじちゃんどうしたの？」と言ってくれた。ほんのわずかな時間ですが、2分位一緒にいてくれました。とても嬉しくて、そのまま抱きしめたかったのですが、新聞沙汰になるので我慢しました。いまだにその時の子どもの素晴らしさが原点になっています。私達は、子ども育てて逆に子どもからエネルギーもらっているんで、茅野市の子どもを大切にしたいと思っております。それからもう一つ、こちらの冊子の管理計画の8ペー</p>

ジに、茅野市の保育と教育事業についてありますが、その中で、子どもが自ら遊びたくなるような保育環境を整え、その中で友達と十分に保育園生活を楽しみ、充実した遊びや日々の生活、様々な活動の中で幅広く体得した学びが、生きる力を育んでいきます。抽象的だがそう書いてあります。先ほどちょっと保育士さんが話をしましたが、茅野市の保育士はこれを本当に目指しています。先日、ある保育園のアプローチカリキュラム授業を見ました。その保育士さんのクラスの願いは、「友達との関わり」。ところが実際にやった保育は言葉への関心を広げる。あれ、どういうことかな？と思って見ていたら、こんな保育をされました。一人一人にA4サイズの大きい紙を1枚ずつ配り、一人一人にその紙に丸を付け、その中にひらがなが書いてあるんです。「あ」もあれば「た」と書いた子もいる、それで私が見た子が「だ」と書いてもらったんです。その書いてもらった言葉を基に紙にかるたを作り、かるた大会をする。その先生が「た」と書かずに「だ」と書いた。その子の名前が「だ」がつく名前だった。言葉はその子の生活の中から生み出され、また戻ってくるのが言葉で。その辺は小学校の低学年の教育はずっといい加減で、頭でっかち教育になっているんだけど。生活から出た言葉を大切にしたい。それでかるた大会をやり、その後一人一人の言葉を膝をくつつけながら、書いた言葉について話をしやる保育。見ててやっぱり感じたのが、言葉への関心を深めると同時に一番の流れである友達との関わり、またかるた大会の中で自分を書いた「だ」というのを選んでくれた子がいたらうんと嬉しいと思うんですね。そんな保育でした。それでそのとき思ったことが、言葉への関心や友との関わりってというのは素晴らしいけれども保育環境をどのように整えるか。保育士の研修、保育士の力、そしてそこに加配保育士さんもついていたという、人的な環境、それからもう一つは、ちょうどそのクラス、今数忘れちゃったんですが、20数人、適正な人数っていうのもあるし、活動によってはもっと少なくともというのもあると思うんですが、そういう点で保育園管理計画を基にこれを出発点に皆さん意見を大切にしながら、本当に茅野市の子どもを大切にしていきたいと思います。ありがとうございました。

## 5 閉会

柳澤幼児教育課長は午後7時34分、閉会を宣言した。